

開催地名	沖縄県宜野湾市
開催日時	令和6年1月20日(土) 10:00～11:30
開催場所	男女共同参画支援センターふくふく
語り部	大内 幸子 (宮城県仙台市)
参加者	消防団、自主防災組織、市職員、地域住民 32名
開催経緯	<p>沖縄県内においても近年、地震が頻発しているが、地域住民の自助・共助に対する理解や意識が低い。</p> <p>また、自主防災組織は23全自治会で立ち上がったものの、地域によって温度差があるため、被災地で実際に活動した方の生の声を聞き、災害に備えるための意識づけを行いたい。</p>
内容	<p>(1) 私の住んでいる福住町、災害体験</p> <p>仙台市の北東部に位置する梅田川と七北田川にはさまれた新興住宅地である。仙台市立高砂小学校区の中の町内会。人口約1,500人(町内会加入世帯427) S61. 8. 5台風10号の集中豪雨2日で402mm。仙台市死者5名、床上・床下浸水32,975戸 福住町全戸が浸水被害、高砂小学校避難も体育館・校舎の1Fも浸水。電気、毛布等の備えはなかった。まだ自主防災組織はなく、避難所運営もない状態だった。</p> <p>(2) 自主防災組織作り(福住町方式)</p> <p>災害時、消防、自衛隊行政等も被災している場合、数日間は期待できない。数々の災害から自分達の町は、自分たちで守る事、出来るだけ行政に頼らない地域力、町内あげでの災害対策。2003年危機管理室アドバイザー指導等により、組織ができる。</p> <p>要支援者や住民の名簿作り、備蓄倉庫の管理(防災用品・防災食)ハザードマップ、災害支援ボランティア活動、仙台市内外の町内会委、市民グループとの「災害時相互協力協定」※支援と交流。</p> <p>小学校見守りボランティアや夏祭り、イベント等で住民のコミュニケーションの構築。(顔の見える環境が共助につながる)</p> <p>16年前より福住町独自に企画運営で地域全員参加型を目指す防災訓練の実施の為、楽しく参加できるよう、毎年新しい事を取り入れる。</p> <p>(3) 多様性のある避難所の運営について</p> <p>仙台市独自の講習カリキュラムに基づいた仙台市地域防災リーダー(SBL)の養成、バックアップ講習会、女性防災リーダーネットワークもあり、仲間とのつながり、活動の範囲が広がることで、多様な視点で防災に取り組むことが出来る。</p> <p>それぞれの地域に合った避難所、運営マニュアルの作成。更衣室にカギ、ペット同伴簡易トイレに洋式が増えた等。</p> <p>(4) 備える、知識を得る、訓練をする、過去の災害について伝える事、忘れない事 いつでもどこでも災害はやってくる。普段から家族で話し合っておく事。大事なものは発</p>

災した時に、どうやってまず自分の身を守るか（自助）、そして、周辺の住民の安否、声掛け（共助）、一人一人が身近なところから出来ることをはじめよう。

持続可能な防災・減災。大人も子供も一緒に訓練出来たら、地域と学校と一緒に活動出来たらと願っている。

質疑応答

- ① 被災者の心理ケアはどのようにしたか。
→動物とのふれあい、ご近所同士の声掛け、みんなで助け合った。
- ② 災害時の人の心理サポート（パニック時）
→普段から防災訓練、講座参加により色々な話を聞き、色々な想定をしておく事と地域リーダーが出来るだけ冷静に行動することで、パニック等軽減できる。
- ③ 今、震度7が起きたら
→その前に、出かける時は、何処へ行くか家族へ伝えておく。
どこへ行ってもまず避難経路を確認しておく。そうすると、災害の際、少しでも落ち着いて避難できる。
- ④ 防災訓練の班長による、各担当家庭の白旗安否確認の情報シートの内容は。
→白旗が立っていないければ、状況確認、重症者の有無、火災、倒壊状況を記入しリーダーへ提出。ただ、実際大災害の際は、班長が被災していたり、情報名簿が取り出せなかった事もある。班長以外の近所の協力や普段の関わり合い、コミュニケーションを取っておくことで、情報を書面だけでなく共有しあっている事も重要。
- ⑤ 自治会、町内会に加入されていない方はどうするのか。
→特にマンションや、単身の方々、非加入者も増えているが、強制は出来ない。それでも町内のイベント、祭りには来たりされる方もいる為、防災訓練を楽しくすることで、非会員の方でも参加する機会があればと考えている。



開催地より

講演会を聞き、大規模災害に備えるための訓練や知識を蓄えるのはもちろんのこと、やはり、地域の復興はそこに住む住人同士の心配りが大切だと痛感しました。

ご近所付き合いが薄くなる中、非常時に地域が結束するためには、地域イベントや活動を通じ、日ごろから顔の見える付き合い方を模索する必要があると感じました。